

表6 SPF犬群の検査及び処置

病 原 体	供試抗原 <sup>1)</sup>	検査時期及び検査頭数		検査方法 <sup>2)</sup>	処 置
		時 期	頭 数		
オーエスキー病ウイルス		3か月毎	群当たり繁殖動物5頭又は10%のいずれが多い頭数	臨床症状	陽性群・同居群 <sup>3)</sup> 全殺
犬アデノウイルス		”	”	SN	抗体陽性群・同居群 全殺
犬コロナウイルス		”	”	SN	”
犬ジステンパーウイルス		”	”	SN	”
犬ヘルペスウイルス		”	”	SN	”
犬バルボウイルス		”	”	HI	”
犬パラインフルエンザウイルス		”	”	SN	”
犬ブルセラ菌	カニス	”	”	AGG	”
レプトスピラ		”	”	AGG	”
狂犬病ウイルス <sup>4)</sup>					

注 犬の健康状態、異常な点等については全て記録する。死亡した犬については病理組織学的検査等を行う。

1) 供試抗原は、他の適切な株を使用してもよい。

2) 同等な検査方法があればその検査法を採用してもよい。検査方法は、その妥当性が検証され、保証された方法で実施すること。 HI：赤血球凝集抑制反応 SN：血清中和試験 AGG：凝集反応

3) 同居群とは、陽性群と完全に隔離されていない群をいう。

4) 国内で発生がない(又は重要度が低い)ものについては、抗原、試験法及び処置については発生国が実施している方法を重視する。